

大阪府立障がい者自立センター退所者アンケート調査結果

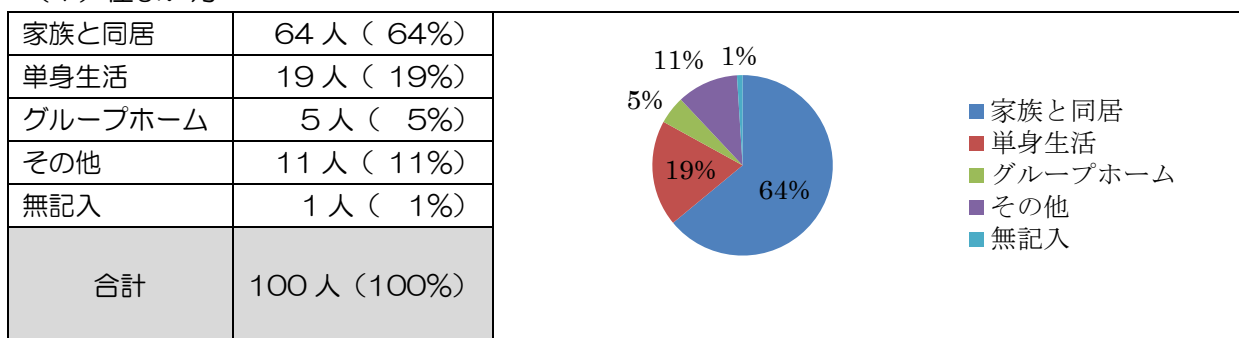
I. 調査概要

1. 調査対象：平成 26 年 4 月から平成 28 年 4 月末までに退所された方 176 人
2. 調査期間：平成 26 年 8 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日
3. 回答率：100 人／176 人 (57%)

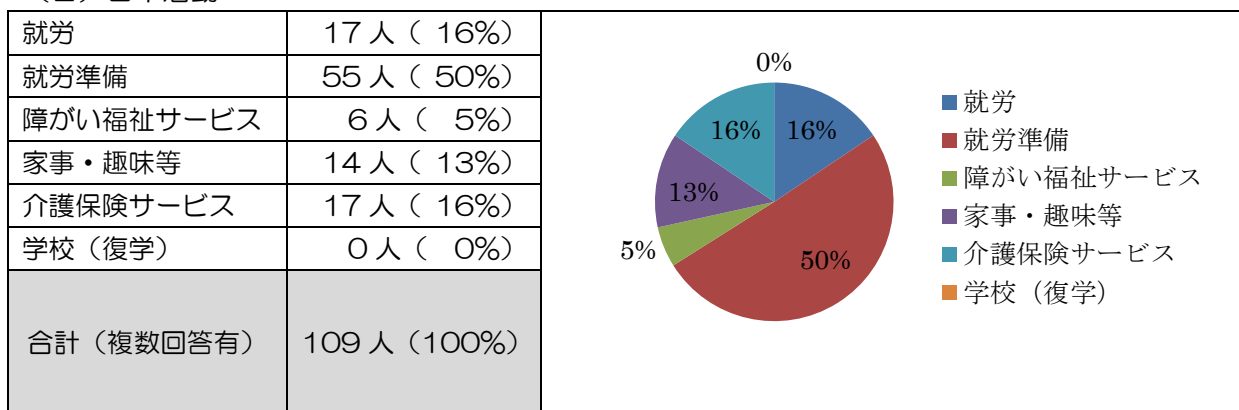
II. 調査結果

1. 今の暮らしについて

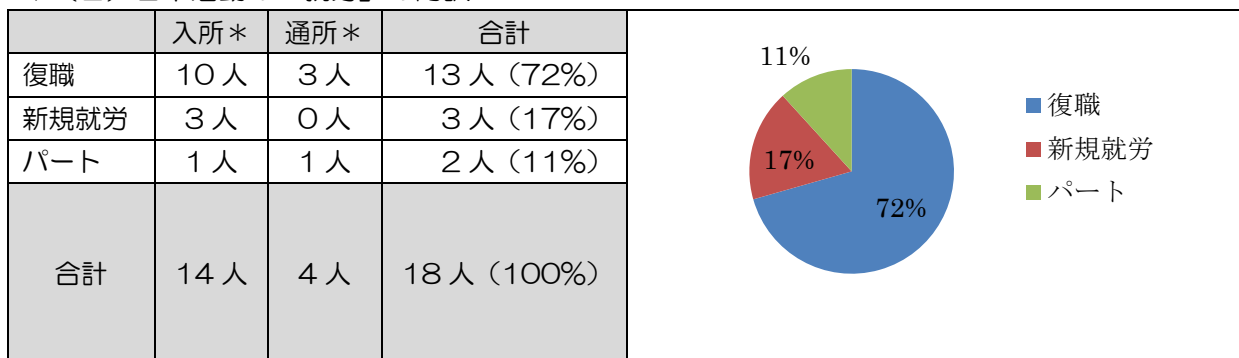
(1) 住まい方



(2) 日中活動

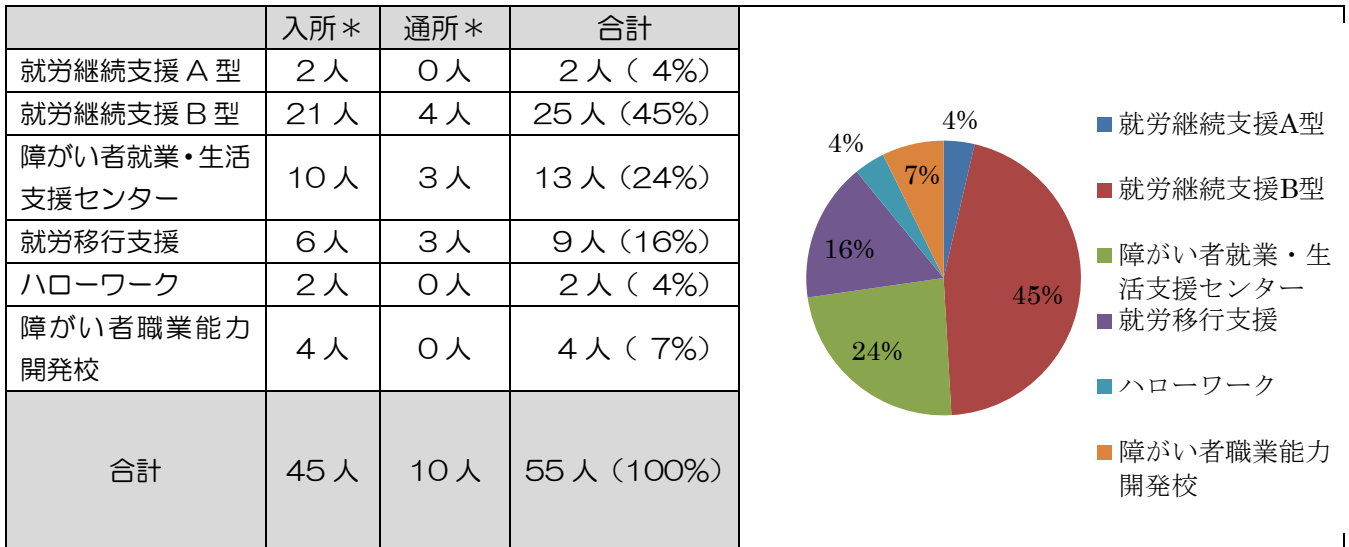


◆ (2) 日中活動の「就労」の内訳



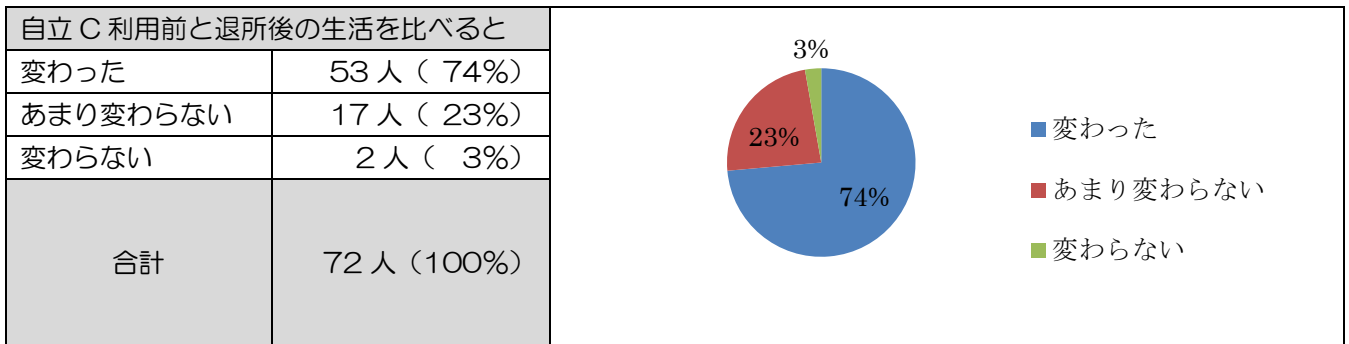
*「入所」は、自立センターの施設入所支援利用者。「通所」は、自立センターの自立訓練 (日中系のみ) 利用者。

◆（２）日中活動の「就労準備」の内訳



*「入所」は、自立センターの施設入所支援利用者。「通所」は、自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者。

2. 退所後の生活について

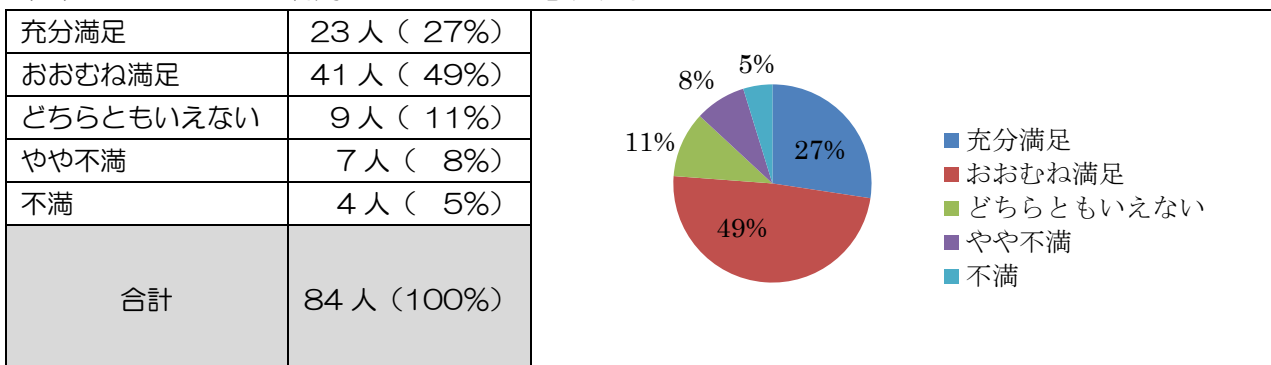


〈変わったと回答した方の意見〉

- 物事に前向きにがんばれるようになった。 ○少しずつだが、気持ちを外に向けるようになった。
- 物事を理解できるようになった。 ○日中車椅子で電車・バスを使って外出できるようになった。
- 復職して、やる気が毎日感じられるようになった。 ○酒と煙草が不必要になった。
- 生活が、規則正しく送れるようになった。 ○自分で考えて、色々な事ができるようになった。
- 障がいの自覚が出てきた。 ○記憶が少し良くなった。

3. 自立センターについて

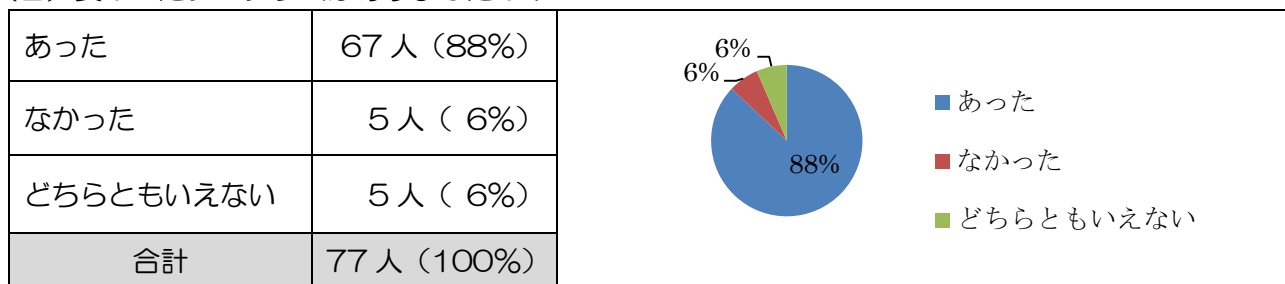
(1) 自立センターを利用してどのように思われましたか？



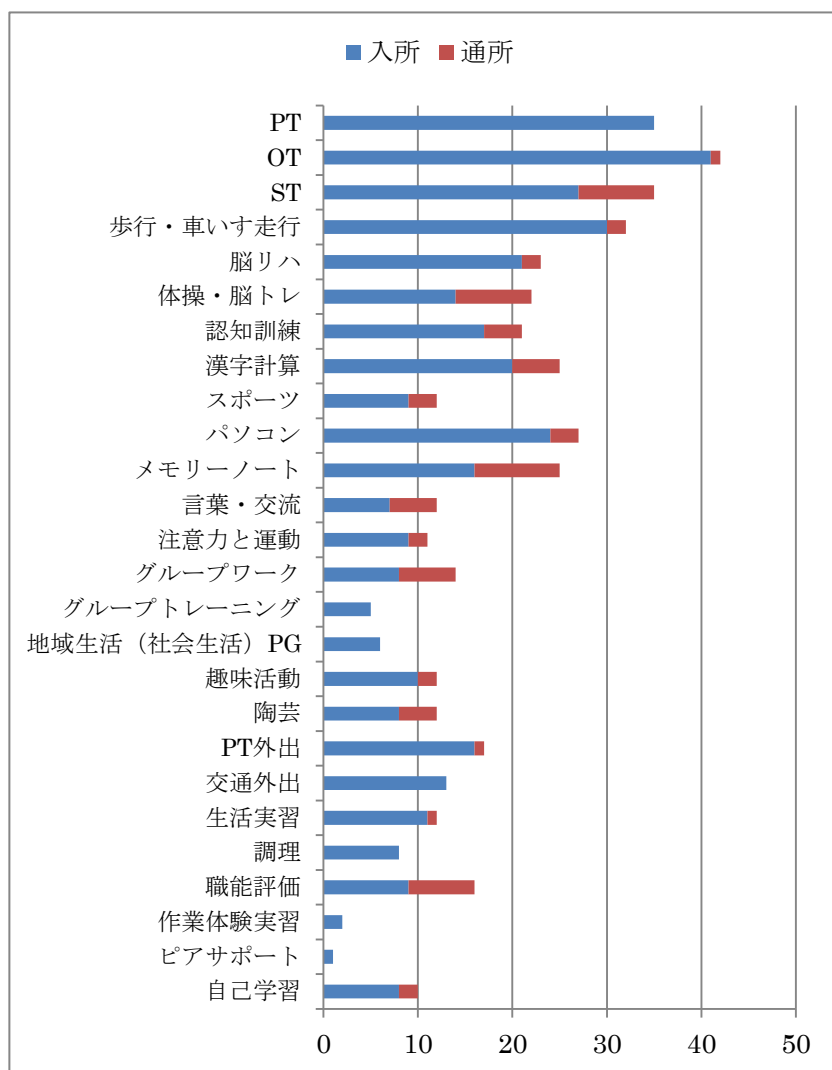
〈不満な点に関する意見〉

- 当事者への理解がない。 ○衛生面で、不安な面が少しあった。
- 休日にプログラムがないので退屈だった。
- 目標まで1年では到達できなかったもので、もう少し時間が欲しい。
- 仕方がないと思うが、行動制限。 ○いろいろな情報を教えて欲しかった。
- 本人にとって良いと思っても、実際は合ってなかったかもしれません。(ご家族意見)
- 週間プログラム表を家族も欲しかった。本人が何をしていたかわからなかった。(ご家族意見)

(2) 良かったプログラムはありましたか？



〈役に立ったプログラム〉



*利用者により受講プログラムは異なります。

*「入所」は、自立センターの施設入所支援利用者。「通所」は、自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者。

参考：プログラム内容

プログラム名		内容
PT (理学療法)	機	身体機能の維持・向上、特に移動能力の向上をはかる訓練。
OT (作業療法)		高次脳機能障がいの方も含め、日常生活動作能力の向上訓練。 ※通所の方は、初期評価のみ実施。
ST (言語療法)		失語症など、言語障がいがある方の言語能力向上訓練。
歩行・車いす走行		歩行能力や車いすでの操行距離延長など、体力維持を向上する基礎訓練。
脳リハ	機	机上で課題を行う認知訓練。*2
パソコン		基礎的なパソコン入力の練習。
体操・脳トレ	生	運動を伴う認知訓練。机上だけでなく動きを伴う事で、より集中して課題に取り組めるようにする。*2
メモリーノート		高次脳機能障がいにおける予定管理能力の向上、および代償手段の獲得。
認知訓練	生	課題を通じて、集中力や注意力・記憶力などの向上をはかる。
漢字計算	生	簡単な漢字の書き取りや計算を行い、脳の活性化をはかる。
言葉・交流		失語症の方にコミュニケーションの場を設け、認知訓練を補う。*1
注意力と運動		運動を通して、注意障がい・遂行障がいの改善をはかる。PT 参加。*1
グループワーク		高次脳機能障がいの理解・共同作業で自発性や会話能力向上をはかる。
グループトレーニング	機	集団で行う基礎的な日常生活動作の訓練。訓練を集団で行う事により、訓練意識を高める。PT、OT 参加。*1
スポーツ		体を動かし、心身の安定をはかる。
趣味活動		書道・筆ペン習字・写経・絵画・絵手紙・塗り絵を実施。*2
陶芸		創造性を養い、趣味を広げると共に、手指のリハビリを行う。
PT 外出	機	単独外出時見守りが必要な方を単独外出可能にする訓練。
交通外出		単独想定による公共交通機関（電車・バス）利用外出の実施・評価。
生活実習		専用部屋にて、単身を想定した生活と評価（買い物・調理・入浴など）。
調理		生活実習を控えた方の事前の調理実習・評価。
職能評価		仕事に必要な能力の評価。
作業体験実習	生	厨房業者協力による食堂の配膳・後片付け補助の実習と評価。*2
地域生活プログラム		就労・会話方法など、地域移行後の課題を整理するグループワーク。退所後の生活に向け、現実に必要な社会資源の活用などを把握する。*2
ピアサポート	機	脊髄損傷協会による相談支援。
自己学習		プログラムの空き時間に自分で課題を行い、認知能力の向上をはかる。

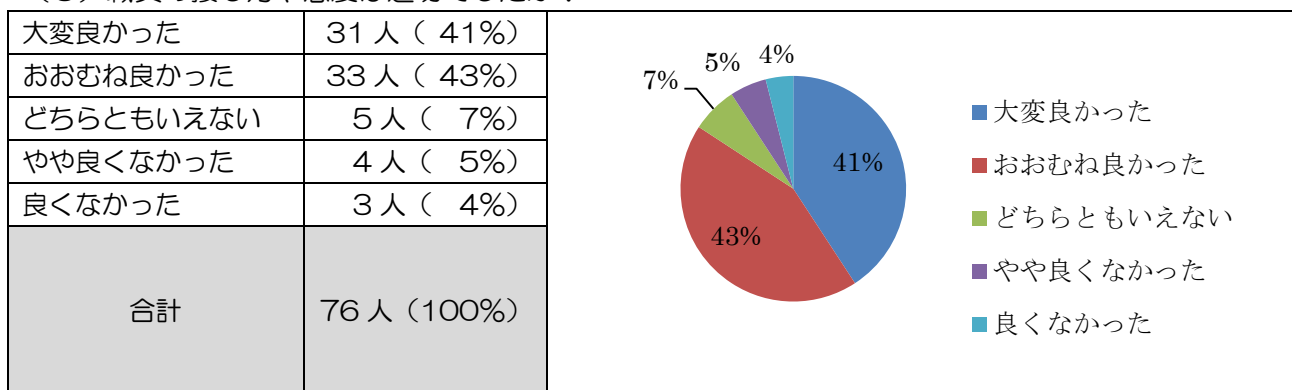
※**機**は機能訓練の利用者、**生**は生活訓練の利用者を対象としたプログラム。なお、プログラムの名称、内容、対象者は、平成 29 年 6 月時点のものであり、今後変更となる可能性があります。

*1：平成 26 年 1 月からの新規プログラム。

*2：既存プログラムの内容を更新・変更等したプログラム。

既存プログラムの内容を刷新	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活プログラム → <u>地域生活プログラム</u> ・脳トレ → <u>体操・脳トレ</u>（通所者も対象）
既存プログラムを合併	<ul style="list-style-type: none"> ・文章文字消し + 認知訓練 → <u>脳リハ</u> ・筆ペン・絵手紙 + 絵画+書道 → <u>趣味活動</u>（通所者も対象）
名称の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬職場 → <u>作業体験実習</u>

(3) 職員の接し方や態度は適切でしたか？



〈良かった点に関する意見〉

【自立センターの施設入所支援利用者】

- 相談を親身になって聞いてくれた。 ○優しく接してくれた。 ○気軽に相談できた。
- 丁寧な対応・支援をしてもらえた。 ○それぞれ人にあった接し方をしていた。
- 気持ちが落ち着いた。 ○情報提供してくれた。 ○すぐ対応してくれた。
- 家族の事も考えてくれた。 ○対等な立場で興味を持ってもらった。

【自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者】

- 相談を親身になって聞いてくれた。 ○私用の事も話げできた。 ○普通に接してくれた。
- 復職のサポートをしてくれた。 ○しっかり注意してくれた。 ○激励してもらった。
- 日々の気付きや変化などを連絡帳でやり取りができ、本人・家族・職員と理解し合えた。

〈良くなかった点に関する意見〉

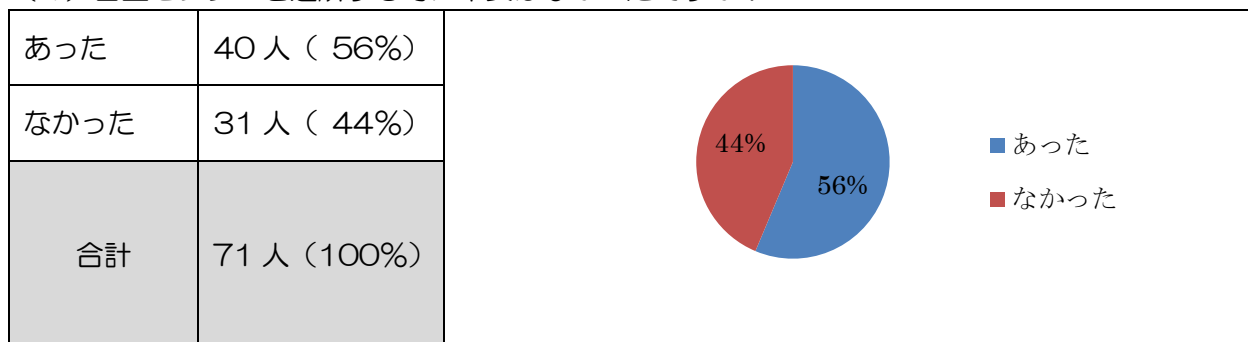
【自立センターの施設入所支援利用者】

- 失礼な言い方や対応する職員がいた。 ○コミュニケーションがとれない。
- 連絡が行き届いていなかった。 ○上から目線の職員がいた。 ○頼み事をしても断られた。
- 留守のことが多い。 ○設備機能のアドバイスがなかった。 ○すぐ対応してもらえなかった。
- 業務をこなすだけみたいな関わり方をされて、悲しかった。

【自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者】

- 職員の数が少ないと感じた。 ○個人的感情で評価された。 ○下に見る事がある。

(4) 自立センターを退所する時に不安はなかったですか？



〈不安があったとされた方の意見〉

【自立センターの施設入所支援利用者】

- ちゃんと生活ができるのか。 ○就職先が見つかるか心配。 ○1人で住む事。 ○お金の事。
- 親が倒れたらどうなるのか心配。 ○身に付いた機能が落ちてしまう事。 ○トイレ。
- 社会に適応できているか心配。 ○歩けるようになるかどうか。
- 自分にあつた施設がどのような所か。 ○サービスをどこまでしてもらえるのか。

【自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者】

- 復職できるか。 ○生活のリズムが狂ってくるのが心配。 ○引きこもらないか心配。

4. これからの生活について

(1) これからやってみたいことは何ですか？

【自立センターの施設入所支援利用者】

- 仕事に就く。 ○復職。 ○旅行。 ○車の運転。 ○スポーツ。 ○1人暮らし。
- OPT リハビリの継続。 ○もっと自立したい。 ○単独での行動範囲を広げる。

【自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者】

- 仕事に就く。 ○復職。 ○旅行。 ○車の運転。 ○買い物

(2) こんな支援があればいいのに、と思うことはありますか？

【自立センターの施設入所支援利用者】

- 相談場所や機関・人。 ○ガイドヘルパーの利用。 ○本当に自立に近い体験をする事。
- 緊急時のショートステイ。 ○障がい者用の歯科や病院

【自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者】

- 相談場所や機関・人。 ○高次脳機能障がい者に対応可能な医療機関の紹介。 ○期待していない。

5. 自由記述欄に記載されたご意見

【自立センターの施設入所支援利用者】

- 病院から直接帰宅するには生活の不安があまりにも大きかったのですが、自立センターを経由したら、スムーズに地域生活に戻る事が出来た。
- 生活能力の向上や、福祉サービスの情報を得て利用する環境を整えるなど、物理的な面だけでなく、自分自身が障がいを受け入れるという気持ちの面でも自立センターで過ごした時間は、大きな意味があった。
- リハビリの回数が少なく、筋力が落ちて残念。
- 退所後も、食事時間はできるだけ同じ時間にして、太らないようにする。
- 1人暮らしは、寂しい。
- 入所後に友達ができ、退所後も会っている。
- 有効なプログラムだった。
- 障がいについて教わって、よかった。
- 一生懸命やらなあかんと、教えてくれた。
- 全体的に「申し送り」が甘すぎます。そこを改善し、職員と利用者の中に生じる摩擦が減少すれば、気持ちよく生活できると思います。

【自立センターの自立訓練（日中系のみ）利用者】

- 主治医は仕事に反対しているが、売り上げ利益のノルマができた。昔のように仕事ができるようになりたい。
- 高次脳機能障がい世間に広めてほしい。
- 自立センターに入所してよかった。
- 地域移行支援事業所に入って、もう少しで仕事に就きます。
- 高次脳機能障がいは、症状が1人ひとり違うため、対応が大変だと思いました。
- 退所後も、リハビリ訓練の成果を維持できるように定期的に通所できるようになれば良い。
- 食事が美味しかった。
- OOB 会して下さい。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

大阪府立障がい者自立センターでは、平成 19 年度の開所以来、退所者の方を対象にアンケート調査を実施しており、今回、平成 26 年 4 月～平成 28 年 4 月末に退所された方々に対するアンケート調査結果をまとめました。

退所後の生活について「変わった」と回答した方は、前回より 17 ポイント上昇しました。内容として、前回の意見では動作や行動面の充実を挙げた方が目立ちましたが、今回の意見では、それらに加えて、やる気を感じられるようになったなど、精神面の充実を挙げられた方がおられました。

自立センターを利用した 76%の人が「充分満足」「おおむね満足」と回答され、提供しているプログラムについては、「良いプログラムがあった」と 88%の人に評価していただきました。職員の態度についても「大変良かった」「おおむね良かった」が合わせて 84%を占めました。プログラムの満足度や職員の態度に関しては、今回の集計内容も、前回のアンケートの結果と、ほぼ変わらない満足度となっています。

一方で、退所する時「不安があった」と、56%の方が回答しました。その内容としては「歩けるようになるのか」「退所後の機能低下」「引きこもってしまわないか」といった意見が、挙がっていました。また、復職への不安も挙げられていました。これらに関しては、日々の訓練や面談の際に、退所後の生活についての情報を盛り込み、見通しを持って退所できるような支援を行う事が必要であると考えています。

いただいたご意見の中で、自立センターや職員の態度に関するご不満については真摯に受け止め、利用して良かったと感じていただける施設となるよう、今後の支援の質を高めるための貴重な情報として全職員で共有し、支援の向上に反映して参りたいと考えております。

最後にアンケートにご協力をいただいた利用者の皆様、そしてご家族の皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。